

# 海外生活 エッセー

## ロンドン事務所

### 英国における交流インフラとしてのパブ ～ Public house で異文化交流～

(一財)自治体国際化協会ロンドン事務所 所長補佐 畑 航平 (神戸市派遣)

イギリスの街を探索していると必ず見つけるものがあります。それはパブです。特に、天気の良い日にはパブの玄関前に人だかりができ、多くの人がビールを片手に楽しそうにお話ししている様子を頻繁に見つけることができます。それもそのはず、イギリス国内にはおよそ4万5,000軒のパブがあるとされており、「Public house」の略語であるパブは、その名のとおり人々の交流の拠点として栄えてきた歴史があります。



クラシックなパブの内観

限られた期間、イギリスに駐在している私にとっても、パブは開かれた交流スペースです。イギリス出身の友人と会うときはもちろん、日本を含むアジア圏出身の方と会う際にも「とりあえずパブで会う」ことがお決まりです。また、イギリス国内の自治体訪問時などにも、雑談の中でパブ巡りを楽しんでいることを話すと、「どこのパブがお気に入り?」「どんな雰囲気のパブが好きなの?」などなど会話がとても盛り上がり、パブはパブ以外の場所でも、会話のテーマとして一役買っていると感じます。

さらには、週に一度、イギリスおよびアイルランド出身の方と会話する集まりに参加し、お互いの母語(日本語と英語)の言語能力向上を図っています。まずはカ

フェに入り、落ち着いた環境で話した後、パブに行ってビールを飲みながらよりカジュアルにお話しするというものです。30分程度ずつ、日本語と英語を切り替えながらそれぞれの言語で会話することで、よりお互いの母語を身近に感じることができています。たいていのパブは客の騒ぎ声や、日本の飲食店では考えられない音量の大きさのBGMで賑わっており、ボンボンと話すようでは全く伝わりません。英語に対する自信が乏しくても、大声で叫びながら話さないと伝えたいことが伝わらないケースが多々あります。そのように一筋縄ではいかないことがありながらも、定期的集まって会話することで、英語力の向上に加えて、会話を通じてイギリスの日常生活や文化・歴史に触れることができ、貴重な異文化交流の機会を楽しんでいます。



外壁が大量の花で装飾されているパブ

そんなパブも、パンデミックやエネルギーの高騰に伴い減少の一途にあり、2000年には6万軒あったものがここ20年で約1万5,000軒が閉店しています。また、ビール1杯当たりの値段も、直近20年で2倍以上に高騰しているようです。

それほどお酒を飲めない私ですが、引き続きパブでの異文化交流を楽しむとともに、交流のインフラとしてのパブ文化をささやかながら応援したいと思います。